

目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	粉乳相場 反転の傾向	p. 2-3
■ バター情報	バター相場 高騰続く	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国産相場は軟調推移、欧州産相場は強含みにて推移か	p. 5
■ カゼイン情報	アルゼンチン生産減、最大輸出先の米国は他生産地へ引合い強める	p. 5-6
■ 乳糖情報	タイト感が続く欧州 米国は好調な生産を維持	p. 6-7
■ チーズ情報	米国第1 四半期輸出量増 米国チーズの在庫量 中国のチーズの輸入量 米国 CME 相場	p. 7-8
■ 国内情報	生乳生産量 2017 年度減産見通し	p. 8-9
■ メルボルン駐在員情報	Fonterra 豪州の積極的な乳価戦略に賛否	p. 9-10
■ 米国駐在員情報	4月の主要23州生乳生産量	p. 11
■	4月の全米生乳生産量	p. 11
■	3月のチーズ、脱脂粉乳の輸出量	p. 11
■	3月のホエイ製品の生産量と輸出量	p. 11-12
■	3月のチーズ、バター、脱脂粉乳の生産量	p. 12
■ 中国駐在員情報	ベトナム企業、中国へ乳製品輸出	p. 12
■ 主要生産国の現行乳価		p. 13
■ 出典		p. 14

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

粉乳相場 反転の傾向

長らく低調に推移していた粉乳相場だが、ここ最近の乳脂肪需要増の影響により、特に全粉乳価格反転の傾向がみられる。オセアニアでは乾乳期を迎えて供給が限られる上に、ピークシーズンを迎えるはずの欧州においても天候不順の影響により思うように生乳生産量が伸びてきていない。脱脂粉乳相場は引き続き低調に推移しているものの、一時期の底値は脱しており、欧州産、オセアニア産、米国産がほぼ同水準となってきている。全粉乳においては、オセアニア産が最も競争力があるものの、欧州産も僅差で続いている。

欧州

欧州では生乳生産量がピークとなる時期を迎えているが、天候不順により昨年を下回るペースで推移し、思うように生乳生産量を伸ばすことができていない。しかしながら、ここ最近になって天候が回復してきており、また生乳買い取り乳価が引き上げられ、酪農家に取っての乳価改善により、欧州の生乳生産量は増加傾向となるのではないかという声も聞こえる。EU 統計局は、EU28 カ国における 2017 年 1 月～3 月の生乳生産量は、前年同時期比 2.3%減となったと発表した。国別では、ドイツが 4.8%減、フランス 4.2%減、イギリス 3.2%減、ベルギー1.4%減、イタリア-1.3%減と軒並み減少している。アイルランドは 1.1%増であった。

欧州産脱脂粉乳相場は底を打ち、強含んで来た。価格上昇要因としては、天候不良により生乳生産量が見込みよりも少なかったこと、EU域内における脱脂粉乳需要が高いことが挙げられる。また2017年1月～3月における欧州産脱脂粉乳の製造量は前年同期比9%減となっており、製造上位3国においてはドイツが11.2%減、フランス 15%減、ベルギー21.2%減と大幅に製造量が減っている。2017年1月～3月の欧州産脱脂粉乳の輸出量に関しては、前年同期比 6.7%増で、その主な輸出先はアルジェリア、中国、インドネシアであった。

欧州産全粉乳相場においてもやや強含みとなってきている。その要因として脱脂粉乳同様、生乳生産量の影響もさることながら、乳脂肪需要が高まっていることがまず先に挙げられる。2017年1月～3月における欧州産全粉乳の製造量は前年同期とほぼ同水準の 0.4%増ではあるが、輸出量は 16.5%もの増加となった。また、欧州の粉乳相場においては、EUR/USD で大幅に EUR 安となっており、為替相場も価格に大きく影響している。

オセアニア

豪州は乾乳期にあり、2017年4月の生乳生産量は前年同月比 6.3%減、今シーズンにおいても前シーズン比 8.0%と大きく下回っている。中でも大きく減少したのはビクトリア州 7.1%、南オーストラリア州 10.0%減、タスマニア 10.6%減となっている。ニュージーランド(NZ)も同様に乾乳期ではあるものの、雨続き、サイクロンなど天候による影響も終息をみせており、生乳生産量は昨年比で増加傾向となっている。

オセアニア産脱脂粉乳相場は欧州産脱脂粉乳相場の影響を受け前月比で若干の強含みとなっている。2017年1月～3月における豪州産脱脂粉乳の輸出量は欧州産、米国産と比べ競争力がなく、豪州産脱脂粉乳の需要激減により、前年同期比 22.4%減となった。

5月16日に行われた GDT の脱脂粉乳平均価格は USD1,998/MT(本船船側渡し価格)となっており、5月2日の USD1,982/MTと比較すると0.8%の値上げとなった。オセアニア産全粉乳相場は世界的な乳脂肪需要増の影響を受け強含んでいる。2017年1月～3月における豪州産の輸出量は前年同期比1.9%増となった。5月16日に行われた GDT の全粉乳平均価格は USD3,312/MT(本船船側渡し価格)、5月2日の USD3,233/MTと比較すると2.4%の上げとなっており、その前の4月18日が USD2,988/MT であることからみると、わずか1カ月の期間で10%近く価格が上昇したことがわかる。

米国

米国生乳生産量は緩やかではあるが好調に推移しており、2017年4月生産量は前年同月比で2%増となり、同年前月比で0.9%増となった。米国農務省の見立てでは、2017年の集乳量は前年比2.1%増となり、2018年に

においては 2017 年の 2.3%増ではないかとしている。米国産脱脂粉乳相場は欧州産、オセアニア産と同水準となっている。

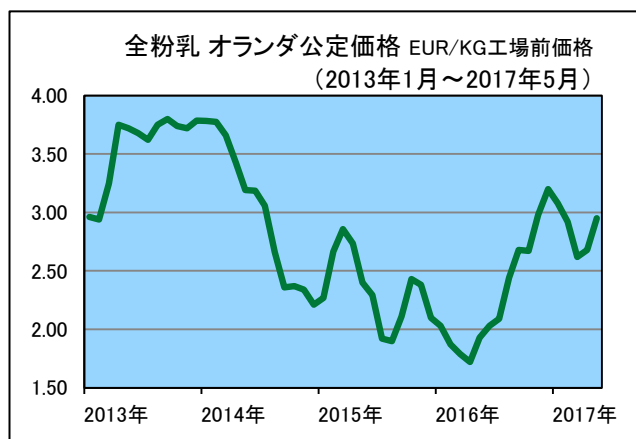
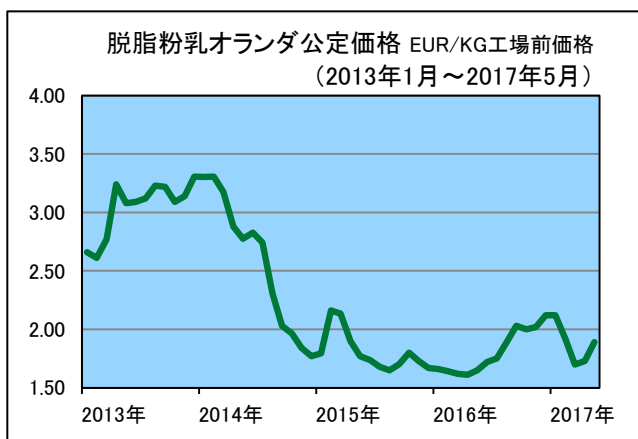
今後の見通し

オセアニアでは来シーズンにおける酪農家からの買い取り乳価の値上げ改善が先日発表されたが、これにより今シーズン減少してしまった生乳生産量が増加に転ずると見込まれている。

欧州においても天候が回復傾向にあり、米国でも引き続き好調に生乳生産量が推移していくとなると世界的な乳製品需要の高まりに対して応えられることとなりうる。現在は特に乳脂肪において需要が供給を上回っており、その影響を受け粉乳価格が上昇傾向にあるものの、9 月頃にオセアニアの生乳生産量が軌道に乗ればそれ以降は、需給バランスが取れ、落ち着きみせるのではとの見方が多い。

現在の粉乳取引価格

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,200 – 2,500/MT CFR ASIAN PORTS
欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,600 – 3,900/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,200 – 2,500/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,500 – 3,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,200 – 2,500/MT CFR ASIAN PORTS



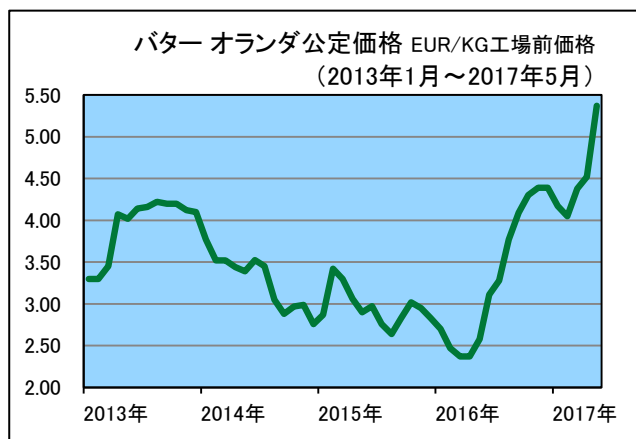
<中村>

■ バター情報

バター相場 高騰続く

欧州

欧州バター相場の高騰が止まらない。ドイツ乳製品市場価格情報センター発表の契約価格モニタリング結果、オランダ公定価格ともにEUR5,000/MTを超える、史上最高値を記録した。欧州域内の乳脂肪需要は依然強く、また域外では米国、さらには中東からの需要が旺盛である。中東ではイスラム教のラマダン(今年は5月27日頃から開始、6月25日頃に終了)明け需要により、一



層活発化したと見られる。一方で欧州委員会によれば、1～3月のバター生産量は前年同時期比4.0%減とのこと。また直近では、通常5月上旬頃に生乳生産のピークを迎えるが、今年は例年よりも気温が低く、生乳生産量のピークが遅れているようである。高値更新を続ける欧州バター相場だが、下げ要因はまだ見当たらない。

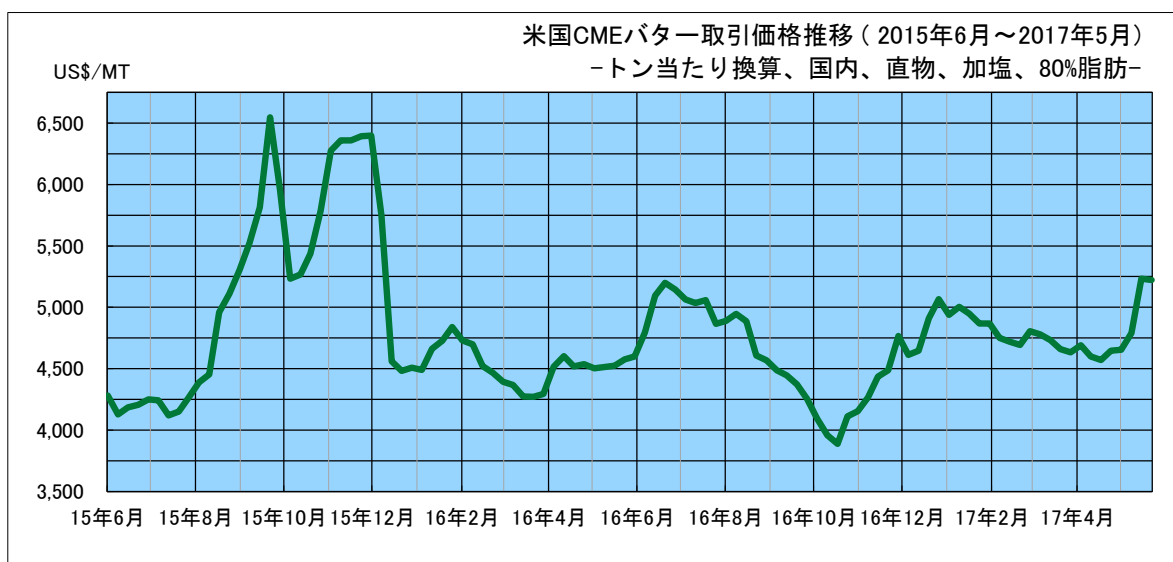
オセアニア

オセアニアのバター相場も引き続き堅調、記録的高値圏にいる。これまで本紙では、欧米における自然食としてのバターへの回帰現象、というトピックを何度か挙げてきたが、オセアニアにもついにその動きが見られ、バター需要が強まっている。一方で、供給は厳しい状況が続いている。豪州の2017年4月(累計10ヶ月)の生乳生産量は前期比8.4%減となっている。乳脂肪の供給は依然タイトで、期近が売り切れ、需要に対し数量が出せないといったポジションのサプライヤーが多い。限られた生乳の争奪戦が乳業メーカー間で繰り広げられ、生乳確保のために各社乳価を上げる動きを見せている。このような背景が、乳脂肪相場が記録的高値圏で推移する一因とも考えられる。

5月のGDTオークションは、AMF・バターともに上昇した。1回目のAMF平均価格がUSD6,185/MT FAS(船側渡し)と前回比4.3%上昇、バター平均価格はUSD4,911/MT FASで前回比0.4%上昇。2回目の平均価格はAMFがUSD6,631で前回比7.2%上昇、バターはUSD5,479で11.6%と大幅上昇となった。AMFは2011年3月以来のUSD6,000台を超えるとともに、2009年11月に取引開始となってから史上最高値を記録した。バターも同様、2013年3月の取引開始以降、初のUSD5,000台を記録した。

米国

米国バター相場は5月の後半で上昇した。1～3月累計でのバター生産量は23.3千トンでほぼ前年同期と同水準であるものの、3月単月では前年同月比1.6%減の約80千トンとなった。3月から4月にかけてバター在庫量は約9千トン積み上がったが、増加量としては過去5年平均を大きく下回っている。4月のバター在庫量は前年同月比1.2%減の約133千トン。欧州・オセアニアのバター相場が軒並み上昇しているため、米国产バター価格と逆転しつつある。今後米国产バターの輸出が再開するようなことがあり、しかも米国内在庫量が積み上がらなくなると、秋口に需給がタイトになる可能性がある。



2017年5月のバター取引価格 (換算レート EUR/USD1.12)

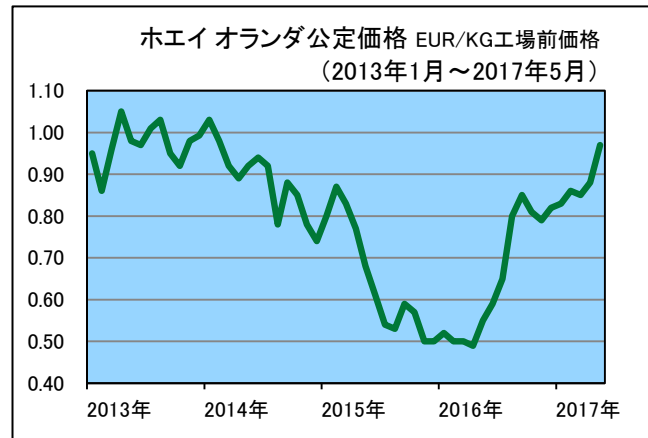
欧州産バター価格	USD6,450～USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,800～USD6,200/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,900～USD6,400/MT CFR ASIAN PORTS
米国产バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,850～USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

■ ホエイ情報

■ 米国産相場は軟調推移、欧州産相場は強含みにて推移か

米国産ホエイパウダーの相場は需要家および製造者の在庫積み増しが順調に進んでいることから軟調傾向で推移している。在庫逼迫感もなく需要家は値打ち感が感じられるオファーに対してのみ積極的にスポット契約を決めている様である。この先さらに価格が下がることを期待して買い控えをしている需要家もあるようだが活発な中国の需要に支えられて大幅な相場変動はないと見込まれる。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、好調なチーズ生産に支えられて2017年3月の米国産ホエイパウダーの生産量は3万9千トンで前年比6.7%増となっている。



欧州産ホエイパウダーの相場は中国を筆頭に各国の需要が堅調であることから供給面を懸念する声が挙がっており強含みで推移している。需要家は欧州産ホエイパウダーの確保を早く進めたい意向がある一方、2017年一番の高値更新中の市況を目の前に葛藤している模様である。

米国産 WPC-34 の相場は横ばいもしくは弱含みにて推移している。しかしながら、規格が厳しい育児粉乳向けや健康食品向けの WPC-34 需要は依然として多く、更に在庫がタイトなことから高値で取引されている様子。一般規格品に関しては安価な脱脂粉乳/NFDM の相場に押され製造者は思うように在庫調整が出来ていない状況。NASSによると、2017年3月米国 WPC-34(25.0-49.9%)の生産量は7,200トンで前年同月比0.7%減、今年2月比較で16.6%増と増産傾向。2017年3月末時点の米国 WPC-34(25.0-49.9%)の在庫量は1万トンで前年同月比20.5%減、今年2月比較で7.1%増となっている。

<高野>

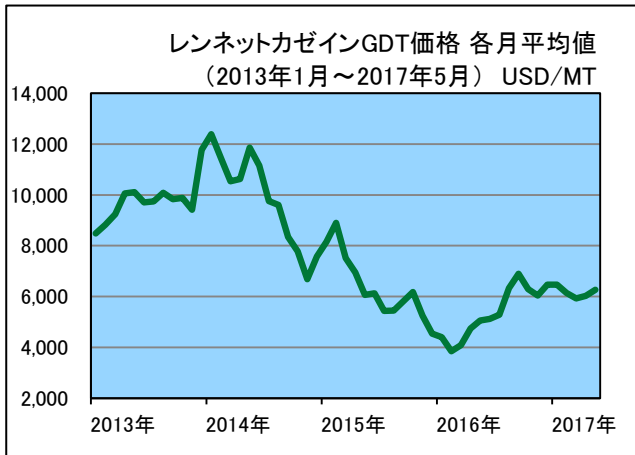
■ カゼイン情報

■ アルゼンチン生産減、最大輸出先の米国は他生産地へ引合い強める

カゼイン相場は、若干の強含みで推移した。供給面では、世界第5位のカゼイン輸出国であるアルゼンチンからの輸出が大きく減少している。その大きな理由として昨年アルゼンチンで複数回発生した洪水により乳牛頭数が大幅に減少したのに伴い、乳量が激減、カゼイン生産量も落ち込んでしまっている点が挙げられる。また、ヨーロッパに関しても、昨年比で生乳生産量がマイナスとなっており、カゼイン生産量はやはり予想より伸びていない模様である。オセアニアも、生乳生産量が落ち込む時期であることからカゼイン生産の増加は見込めない。

需要に関しては、特にアルゼンチンの供給量減少の為、同国のカゼイン最大輸出相手国であり、また世界最大のカゼイン輸入国であるアメリカから欧州、オセアニアへの引き合いが強まっている。そのため、欧州、オセアニアともに需要の高まりに対し、供給量の伸びが追いつかないため価格は若干上がっている。なお、直近の GDT 価格は下がったものの、4月の平均価格に比べ5月平均価格は上昇しており、市況としては堅調な状況である。

今後は、夏場以降オセアニアからのカゼイン供給量が伸びてくること、低迷を続ける相場に嫌気をさした脱脂粉乳製造者がカゼインへ生産の切り替えを進めていくものと思われることから、供給量増が予想される。しかし、欧州で集乳量が思ったほど伸びていないこともあり、カゼインの供給量増加までにはしばらく時間がかかる可能性がある。よって相場は、しばらくの間は強含みで推移し、先々カゼインの供給量増加とともに徐々に落ち着いてくるものと思われる。



レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年3月7日	USD 5,678
2017年3月21日	USD 5,927
2017年4月4日	USD 6,260
2017年4月18日	USD 6,020
2017年5月2日	USD 6,775
2017年5月16日	USD 6,259

<作田>

■ 乳糖情報

■ タイト感が続く欧州、米国は好調な生産を維持

欧州

欧州産乳糖相場は、横ばいで推移している。欧州産チーズは他主要生産国に比べて価格競争力があり輸出が好調なため、生産量が安定しており、結果、原料ホエイ及び乳糖の生産量も安定している。需要面ではオセアニアの脱脂粉乳蛋白調整用途が落ち着きを見せる一方で、中国を始めとする域外の育児粉乳用途が引き続き旺盛で、タイトな状況が続いている。一部メーカーでは第3四半期分は既に売り切り、第4四半期の交渉を始めている。

今後については、好調な輸出需要により第3四半期から第4四半期にかけてもタイトな状況は続くものと思われる。しかしながら、米国産乳糖の相場が落ち着きを見せ始めているため、大幅な価格上昇は考えにくい。

米国

米国産乳糖相場は、横ばいからやや強含みで推移している。3月の生乳生産量は、例年よりも早く訪れた春先の乳量増の影響もあり好調を維持しており、前年同月比1.8%増加した。チーズの生産量も3.3%増となり、ホエイ及びWPCの生産も順調に伸びている。特に蛋白含有量の高いWPC80やWPIの生産が好調で、ホエイパーミエイト、乳糖生産量も合わせて増加している。需要面では中国向けの育児粉乳用途が旺盛で、第一四半期の同国向け輸出量は前年同月比8.4%増加し、3月の米国内月末在庫は前年比7.4%減少した。一方で、オセアニア向けの脱脂粉乳蛋白調整用途の引き合いは落ち着いているため、第2四半期以降、需要と供給のバランスが取れた状態に近づいてきている。

今後については、安価な穀物飼料を背景に生乳生産量は拡大し、乳糖生産量も好調を維持することが予想される。第3四

国別乳糖輸入量:4月時点の累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	1,923	2,889	50
フランス	397	543	37
ドイツ	3,819	5,355	40
カナダ	806	1,014	26
米国	14,745	15,397	4.4
豪州	0	0	-
ニュージーランド	948	1,052	11
その他	341	635	86
合計	22,979	26,885	17

米国からの乳糖輸出量(2017年1月～3月)

1.	中国	15,673トン
2.	日本	11,935トン
3.	メキシコ	11,252トン
4.	ニュージーランド	9,319トン
5.	インドネシア	5,313トン
6.	シンガポール	4,714トン
7.	インド	3,869トン
	輸出量総計	87,061トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年3月)

乳糖生産量	44,271トン	前年比5.1%増
月末在庫	53,977トン	前年比7.4%減

半期は、秋冬の国内、輸出向け製菓用途で 200 メッシュの需要が増加するため、相場は横ばいから若干の強含みで推移するものと思われる。粗いメッシュサイズについては、バランスの取れた状態、すなわち横ばいに推移すると予想する。

<真野>

■ チーズ情報

■ 米国第1四半期輸出量増

アメリカ乳製品輸出協会によると 2017 年 1 月～3 月の米国産乳製品の輸出量は前年同期比で数量が 14%増、金額にして17%増であった。2月～3月のメキシコ及び中国向けの数量が回復したことが起因している。しかしながら、未だに2013年や2014年の水準からは大きく減少している。第1四半期はバターと全粉乳いずれの品目においても増加しており、チーズ、粉乳、ホエイ、乳糖全ての合計で461,900トン、約13億ドルとなった。3月単月では金額にして4億8千200ドルに達し、直近22ヶ月で最も高いものとなった。

	2017年1月～3月	増減率
脱脂粉乳/NFDM	148.7	+19%
ホエイ	129.0	+27%
乳糖	87.1	+3%
チーズ	80.2	+12%
MPC	6.1	+8%
全脂粉乳	6.0	-9%
バター	5.0	-49%

CWT (Cooperatives Working Together) は 2017 年累計(5月22日時点)で約 15,500 トンの輸出助成を行っており、3月末時点まででは約 9,745 トンの輸出助成を行った。チーズの輸出量は 80,200 トンのうち CWT の助成による輸出は 1/8 程度に留まっていることになる。(メキシコ等北米向けは約 23,500 トンで CWT 対象外)

■ 米国チーズの在庫量

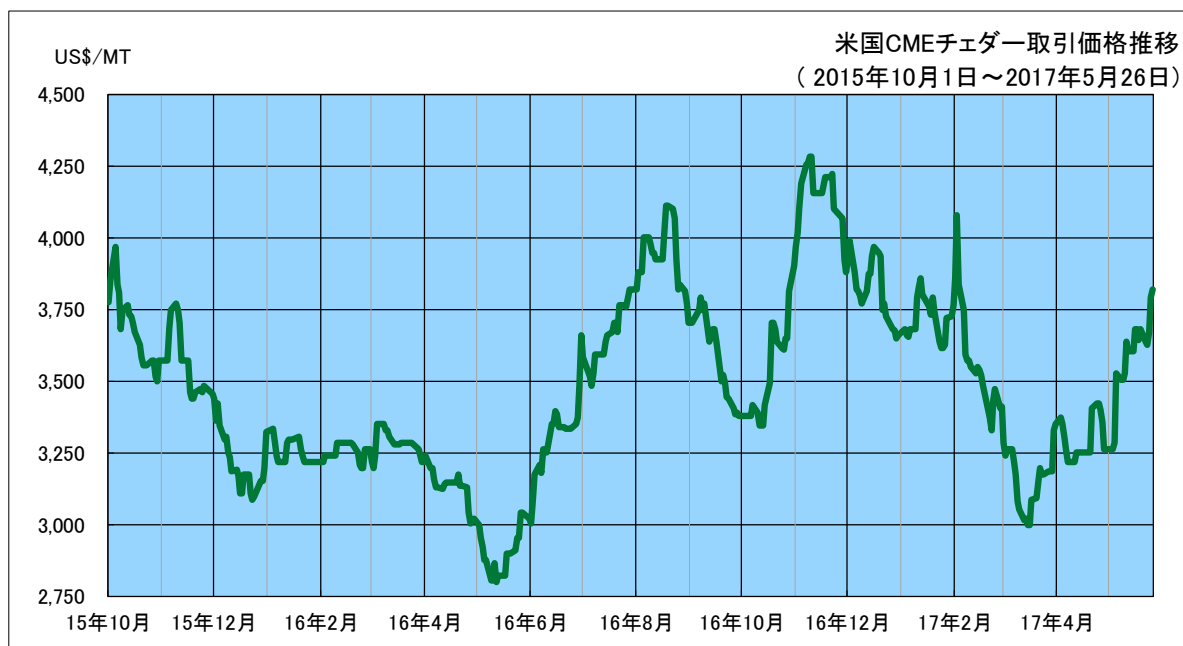
4 月末の米国におけるアメリカンタイプ(チェダー、モンレージャック、コルビー等)のチーズの在庫量は前月末比 14,846 トン(4.1%)増の 379,135 トンとなり、前年同月比でも 13.7%増となった。前月比の上昇幅としては 1999 年以降で最大となった。アメリカンタイプチーズの在庫量の増加によってチーズ全体の在庫量も 19,068 トン増の 603,820 トンとなり、過去最高を更新するとともに前年同月比では 10.4%増となった。

アメリカンタイプチーズの在庫は輸出に向けられるブロック(約 20kg)よりも、圧倒的にバレル(約 228kg)の方が多いとされている。それに対して、CME の相場はブロックとバレルと分かれて取引されている。従って、同在庫量の推移が直接ブロック相場に影響するとも言いきれない点は注意が必要である。

■ 中国のチーズの輸入量

中国のチーズの輸入量(プロセスチーズを含む)は 2014 年 6 万 6 千トン、2015 年 7 万 6 千トン、2016 年 9 万 7 千トンと大幅な増加ペースで推移しているが、2017 年 4 月は単月で 8,067 トン、1 月～4 月の累計で 4 万トンに迫る輸入量となっており、前年同期比で約 20%上回るペースとなっている。中国の今後の輸入量の増加には引き続き注視が必要である。

米国CME相場



2017年5月のCMEスポット相場は5月1日にUSD3,264/MTから開始となった。その後価格は堅調に推移し5月26日時点ではUSD3,820/MTとなっている。

<斉藤>

国内情報

生乳生産量2017年度減産見通し

生乳生産

農林水産省が発表した4月の全国生乳生産量は61万6,705トンで前年同月比2.2%減となった。地域別では北海道が32万711トンで前年同月比2.2%減、都府県は29万5,994トンで前年同月比2.1%減となっている。Jミルクが発表した2017年度の需給見通しでは、引き続き乳牛頭数が減少していくことに加え、飲用向け需要の増加が見込まれることから、生乳需給は逼迫傾向が続くと見込んでいる。気象庁は2017年6月～8月の平均気温が例年より高いと予測しており、9月は飲用向けが最需要期となるため、夏から年末にかけての生乳需給に関して関係者から不安の声が上がっている。

バター

農林水産省が発表した4月のバター生産量は5,718トンで前年同月比12.1%減、在庫量は25,039トンで前年同月比8.1%増となった。Jミルクが発表した需給予測によれば、2017年度のバター生産量は前年対比5.5%減と前年度を下回る見通しとなっているが、在庫量に関しては、昨年度の追加輸入分及び今年度の輸入予定分として1万8,000トン売り渡す予定となっており、2017年度末の在庫数量は前年対比11.0%増となると予測している。

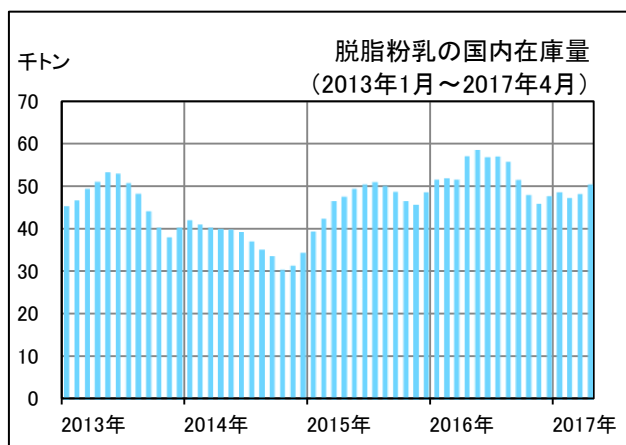
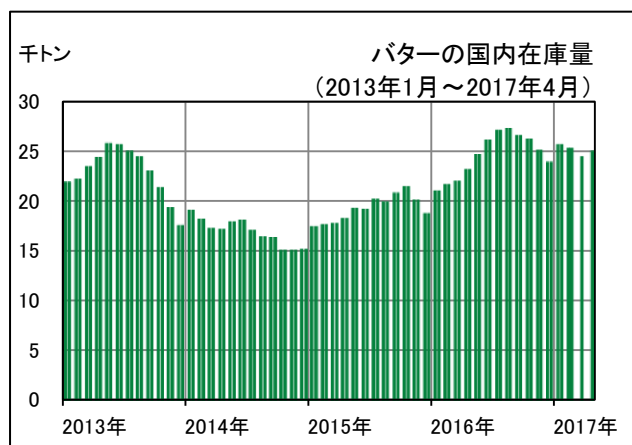
農畜産業振興機構は5月25日、今年度輸入予定のバター1万3千トンの内、2,500トンの売買同時入札(SBS)を実施した。落札数量は684.2トンで落札率は27%、売渡落札平均価格は¥985,062/トンであった。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した4月の脱脂粉乳生産量は11,637トンで前年同月比6.8%減、在庫量は50,413トンで前年同月比11.5%減となった。脱脂粉乳の2017年度の在庫水準が前年対比15.5%減となる見通しとなったため、同省

は当初の輸入枠1万3千トンに2万1千トンを上乗せした計3万4千トンを今年度に放出及び輸入することとした。上乗せ分に関しては、5月30日に説明会が開かれ、6月8日に一般入札2千トン、6月13日にSBS入札5千トン、6月27日にSBS入札5千トン、7月も日程は未定だがSBS入札5千トン、残りの4千トンに関しては需給状況を見ながら随時入札を実施していく予定と示された。

脱脂粉乳の追加輸入が決定したが、今夏は前年より気温が高いことが予想され、事実、首都圏では5月としては記録的な暑さと降水量の少なさが、生産地である北海道でも5月後半には平年より最高気温が上回る日が報じられている。引き続き牛乳、発酵乳への需要が強いことから需給動向は緊張感を持って見守りたい。



生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年4月	617	324	25	289	4
前年同月比	97.8%	100.1%	99.8%	95.4%	93.9%

<増田>

■メルボルン駐在員情報

Fonterra豪州の積極的な乳価戦略に賛否

5月17日、Fonterra 豪州は来シーズンの支払い乳価の予想を AUD5.30-5.70/kg MS(Milk Solid, 乳固形あたり)と発表した。また該当する酪農家には更に上乗せして AUD0.40/kg MS を支払うことを発表した。最大 AUD6.10/kg MS の支払い乳価となり、競合他社の来年度乳価は概ねAUD5.20-5.80/kg MSと予想されている中で現状では圧倒的に高い乳価提示となる。

MGC 社は 2015/16 年シーズンの酪農家からの乳価過払分の返金ローンプログラムを廃止して、当時の過払い分を放棄することを発表した。Fonterra 豪州は 2015/16 シーズンに過払い分の 5 千~6 千万豪ドル(約 40-50 億円)を既に回収しており、代わりに来年度の乳価に上乗せして該当の酪農家に返金する方針を発表した。離れていった酪農家の再獲得、すなわち競合他社の酪農家を獲得し集乳量の増加を目指す。戦略的には非常に賢いように思えるが、競合他社及び酪農家からの批判的な声も一部予想される。2015/16年シーズンの問題は、残り2ヶ月を目の前にした4月に突如 MGC 社の危機的な財政難が発表され、酪農家へ約束の乳価(AUD5.60/kg)が払えず、加えて既に高く払ってしまった乳価を返金して欲しいという前代未聞の状況に陥ったことであった。

国際相場が暴落し非常に苦しい中、競合他社の WCB 社、Bega/Tatura 社、Burra 社はシーズン最後まで AUD5.60/kgの支払い約束を守った。一方、Fonterra 豪州は、ニュージーランド本社では史上最高益であったにも

かわらず、残りの5-6月の乳価をAUD1.91/kgと大幅にカットした。Fonterra社は酪農家との契約の中で、常にMGC社の乳価と同価かそれ以上の乳価を提示するという内容があるため、とは言うものの、危機的な状況のMGC社の条件に追随する必然性は全く無かったわけでFonterra豪州への批判は大きく、未だに強い反感を持っている酪農家は少なくない。多くの酪農家がFonterra豪州を離れており、同社に戻ることを拒否している酪農家も少なくない。それでも殆どの酪農家は財政難に陥っており、来年度にFonterra豪州から一酪農家あたり平均約5万豪ドル(約415万円)が追加されると、無視できないのが実情だと思われる。当時反感を買いながらも回収した5千~6千万豪ドルを元手に高い乳価を提示するFonterra豪州社と競争しなくてはならないWCB社、Bega/Tatura社、Burra社も来シーズンの乳価提示は少しでも高いレベルを目指すと思われる。

今シーズンは豪州全体で20年ぶりの生乳生産量の落ち込みとなっており、870万トン水準まで減少すると言われている中、限られた生乳の奪い合いは例年以上に熾烈なものとなっている。既報の通り、特にビクトリア(VIC)州北部の生乳減少と、主要乳業会社の生乳確保の競争は激しいものがあり、Fonterra豪州は上述の通り酪農家離れが進み北部では20-30万トンの生乳を失っているとも聞こえてくる。Stanhope工場の新チーズ製造ライン稼働の為に集乳量を大幅に増加させる必要がある中で、戦略的な乳価提示は理解に苦しむことはない。またその他乳業会社も積極的な乳価を提示してくると予想される中で、万が一、豪州最大の酪農会社であるMGC社だけが競争に取り残されてしまった場合その影響が非常に心配される。今シーズンの支払い乳価の最終価格、また7月から始まる新シーズンの各乳業会社の乳価提示動向に注目が集まっている。

各乳業会社乳価(今シーズン2016/17年度)

MGC社	AUD4.60/kg MS (現状を鑑みて最終価格はAUD4.95/kgと発表。約65億円の追加借入。)
Fonterra社	AUD5.20/kg MS
WCB社	AUD5.10/kg MS
Bega/Tatura社	AUD5.13/kg MS
Burra社	AUD4.80-5.05/kg MS

豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年4月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月~累計(前年同時期比)
NSW	83.9 (-1.6%)	948.8 (-5.4%)
Victoria	371.1 (-7.1%)	4,937.7 (-9.6%)
Queensland	31.1 (0.0%)	353.5 (+1.4%)
South Australia	38.1 (-10.0%)	410.5 (-8.5%)
Western Australia	30.0 (-1.0%)	317.3 (-1.5%)
Tasmania	66.5 (-10.6%)	730.4 (-6.8%)
Australia	620.6 (-6.3%)	7,698.2 (-8.0%)

ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年4月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月~累計(前年同時期比)
東部	133.8 (-3.0%)	1,722.8 (-4.8%)
北部	124.7 (-15.1%)	1,469.6 (-18.4%)
西部	112.7 (-1.5%)	1,745.3 (-5.6%)
ビクトリア州全体	371.1 (-7.1%)	4,937.7 (-9.6%)

<松本>

■ 米国駐在員情報

4月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると4月の主要23州の生乳生産量は7,808,800トンで前年同月比2.0%増となった。先月発表の3月の生乳生産量は前年同月比1.9%増の7,990,400トンへ上方修正された。主要23州における4月の一頭当たりの平均搾乳量は約893キロで前年同月を約9キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来4月単月の数字としては過去最高となった。主要23州における4月の平均乳牛頭数は872万頭と発表され、前年同月比81千頭、前月比では8千頭の増加となった。

4月の全米生乳生産量

2017年4月の全米生乳生産量は8,308,200トンで前年同期比2.0%増となった。また、全米の一頭当たりの平均搾乳量は約885キロで前年同月を約11キロ上回った。4月の平均乳牛頭数は939万頭と発表され、前年同月比69千頭、前月比では8千頭の増加となった。

2017年4月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,561,760トン	-1.1%	(-17,706トン)
ウィスコンシン州	1,147,712トン	+0.6%	(+6,810トン)
ニューヨーク州	574,310トン	+3.9%	(+21,338トン)
アイダホ州	539,806トン	-0.7%	(-3,632トン)
テキサス州	465,350トン	+12.8%	(+52,664トン)
ミシガン州	427,214トン	+4.2%	(+17,252トン)
ペンシルバニア州	430,392トン	+2.5%	(+10,442トン)
ミネソタ州	375,004トン	+2.0%	(+7,264トン)
ニューメキシコ州	320,070トン	+7.5%	(+22,246トン)
ワシントン州	245,614トン	-2.5%	(-6,356トン)

3月のチーズ、脱脂粉乳の輸出量

3月の米国産チーズの輸出量は29,419トンで前年同月比22.2%増、前月比6.8%増となり、2015年4月振りに過去最高を記録した。最大輸出先であるメキシコ向けについても単月としては過去最高の10,397トンと前年同月比15%増、前月比22%増となった。しかしながら、1~3月の累計で見ると前年同期を5%下回る23,517トンに留まっている。全体で見ると、1~3月の米国産チーズの輸出数量は80,163トンで前年同期を12%上回っており、韓国、オーストラリア、カナダ向けの数量が伸びたことが寄与している。

3月のNONFAT DRY MILK (NDM)とSMPの輸出量は48,442トンで前年同月比17.5%増となったものの、前月比では15.9%減となりこれまでの伸び率と比較すると鈍化している。最大輸出先であるメキシコ向けについては、大方の減少予想に反し1~3月の輸出量は67,182トンで前年同期比17%近い増加となった。全体で見ると、1~3月の米国産NDMとSMPの輸出数量は148,142トンで前年同期を18.0%(約22,700トン)上回っている。

3月のホエイ製品の生産量と輸出量

チーズ生産が季節的なピークを迎えていることから、必然的にホエイの生産量も増加している。数ヶ月間に渡り前月比を上回り続けてきたWPI(蛋白90%以上)の3月の生産量は4,358トンとなり、前月比11.5%の減少に転じた。

ものの、前年同月比では依然として 6.5%上回っている。WPI の在庫量については、生産量が前月比 2 桁減となったにも拘らず、3 月末時点の数字は 10,714 トンで前月末とほぼ変わらず、前年同月比では 32%(2,588 トン)上回っている。メーカーは、液状ホエイの処理をホエイパウダーと WPC 製造にシフトさせつつある。3 月のホエイパウダー生産量は前月比 2.7%増の 39,271 トンとなり、前年同月比では 6.7%増となっている。

ホエイパウダーの生産量増加によって国内在庫も増えており、3 月末時点の在庫量は 34,731 トンで前月比 10.7%増、前年同月比でも 3.1%増となった。WPC(蛋白 25-49.9%)ならびに WPC(蛋白 50-89.9%)の生産量は前月比 5.3%増となっている。前者については、7,219 トンで前年比 0.7%減、後者については、11,895 トンで前年比 1.2%増となっている。在庫量はともに前年同月を 2 桁下回る水準となっており、WPC(蛋白 25-49.9%)は 10,578 トンで 20.5%減、WPC(蛋白 50-89.9%)は 16,798 トンで 14%近い減少となっている。

輸出量に関しては、3 月のホエイパウダー輸出は 17,343 トンで前月比では 4.7%増、前年同月比では 61.0%増と大きく上回っている。1~3 月累計のホエイパウダー輸出量は前年同月比 27.0%増の 47,670 トンとなったが、中国向けの輸出が増えたことが大きく寄与している。3 月の中国向け輸出数量は 21,338 トンとなり、前年同月比 12,712 トン増となっている。1~3 月累計での WPC(蛋白 80%未満)の輸出量は 36,547 トンで前年同月比 44%と非常に好調であったが、中国向けが 87%増、メキシコ向けが 59%増と大幅に増えたことによる。3 月単月での WPC(蛋白 80%以上)の輸出量は 2,906 トンで前月比 12.5%減となったものの前年同月比では 10.0%上回っている。

3月のチーズ、バター、脱脂粉乳の生産量

3 月のチーズ生産量は 482,148 トンで前年同月比 3.3%増となった一方、バターは前年同月比 0.3%増の 79,677 トンに留まった。NDM と SMP の合計の生産量は 96,475 トンで前年同月比 86,714 トン減となった。NDM の国内メーカー在庫数量については、前月比 5.8%減の 112,138 トンまで減少したものの、依然として前年同月比を 6.4%上回る水準となっている。

<佐藤>

中国情報

ベトナム企業、中国へ乳製品輸出

ビナミルクは中国へ乳製品を輸出する方向であることを近頃明らかにした。ベトナムの会社として初めて中国へ乳製品を輸出することとなる。同社のスポークスマンは、新華社通信の記者に対し、ベトナム国家主席チャン・ダイクアンが 5 月 11~15 日に中国訪問を果たした際、中国企業と覚書を交わしたことを明らかにした。ベトナム乳製品協会ウー・ユイ・チョン会長は、中国向け乳製品輸出について楽観的であるベトナム企業は増えつつあると表明した上で、「今、ようやく大きな門(中国への輸出)が開かれたが、ベトナム企業は中国市場へ進出するためレベル向上の努力をすべきである。」と語った。ビナミルクはベトナム最大の乳製品企業であり、2016 年の輸出額は約 2 億 5800 米ドル。既にベトナム国内において牧場 10 カ所と 13 工場を所有している以外にも、アメリカ、ニュージーランド及びカンボジア各々に 1 カ所の牧場を有している。ベトナム国内での液状乳市場シェアの 53%を占め、ヨーグルトと濃縮乳の市場シェアはそれぞれ 84%、80%となっている。

<西村>

■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価 ^{※1}	直近の乳価	
日本	¥96.23/㍓	¥93.33/kg ^{※2}	(2017年3月)
ドイツ	¥42.90/㍓	EUR33.56/100kg	(2017年3月)
アイルランド	¥43.70/㍓	EUR34.18/100kg	(2017年2月)
オランダ	¥46.02/㍓	EUR36.00/100kg	(2017年3月)
米国	¥46.68/㍓	USD18.50/100ポンド (100ポンド=45.359kg)	(2017年2月)
豪州	¥31.77/㍓	AUD4.95/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)
NZ	¥39.71/㍓	NZD6.50/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

為替レート: EUR=¥124.00 / USD=¥111.00 / AUD=83.00 / NZD=79.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lactojapan.com

出典:

- AGRA EUROPE 各誌
- Dairy Dairy Report
- Dairy Industry Newsletter
- 農畜産業振興機構“畜産の情報”
- AMS Dairy Market News
- 日刊酪農乳業速報
- Rice Dairy
- NZ Herald
- Stuff.co.nz
- 食品産業網
- Weeklytimes
- USDEC Export Trade Data
- Global Trade Information Service
- USDA's Dairy Market News
- Australian Financial Review
- 食品産業サイト
- 経済日報
- 東方ネット
- 央広ネット

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。